

平成24年6月25日

神戸電鉄粟生線活性化協議会 御中

近畿運輸局 企画観光部交通企画課

地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通活性化・再生総合事業経過措置）  
に関する二次評価について

平素より、近畿運輸局の交通行政の推進に関しましてご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴協議会から提出のあった標記事業に係る自己評価につきまして、地域公共交通活性化・再生総合事業実施要領（平成20年2月29日国総計第101号）5に基づき、二次評価を行ったので、評価結果を通知します。

今後とも、地域公共交通の確保維持改善に関しまして、格別のご協力を賜りますようお願いいたします。

## 計画事業に係る事後評価項目記載要領(初年度・2年度目)

### I 総合評価

地域の主体的な取組みと創意工夫による公共交通の活性化・再生を通じ、個性豊かで活力に満ちた地域社会実現に寄与するために適切な事業を選び出し、当該事業を本格実施する環境を整備するための検討を行ったか。

法定協議会を適切に開催し地域利用者の意見を反映させながら、粟生線の利用促進と地域を活性化するための適切な事業を選び出し、初年度事業の成果を踏まえ、効果的なものから順次、計画的に実施を進めた。

各事業の実施状況や効果を踏まえ、改善を図りながら来年度の事業に繋げていく。

#### 【二次評価】

- ・自己評価のとおり。
- ・各種取り組みについて、継続的・連続的に沿線住民と連携して取り組んでいることは評価出来る。
- ・今後は、通勤主体だった輸送がどう変わっていくのか、沿線住民がどういう暮らしをするのか、5年後、あるいは10年後の沿線の姿を想定し、取り組みの方向を見直していくことが重要である。
- ・今回の自己評価等については、利用者だけではなく地域全体の理解を得つつ関心を高めていく観点からも、事業内容や成果、取り組みの経過などについて、地域住民に分かりやすく周知を図るよう一層努められたい。

### II 計画事業の実施

① 事業計画に位置づけられた事業が適切に実施されたか。事業計画に位置づけられた事業が事業計画どおりに実施されなかった場合には、適切な理由等が明らかにされているか。

事業計画は、①鉄道の活性化・再生に係る事業、②公共交通利用促進に資する事業に大別される。

2年度目の事業としては、特に沿線の住民・学校・事業所・自治体職員等に対するモビリティ・マネジメントを重点的に実施し、持続的な鉄道利用が地域に定着するような取り組みに努めたほか、初年度に実施した定期外旅客の利用促進に資する事業についても内容の充実を図った。さらに駅へのアクセスを改善して潜在需要の掘り起こしを図るため、駅前パーク&ライド駐車場の整備拡大も実施し、当初目標20万人に対して、約17.7万人の取り組み効果があったと推定される。なお、用地確保の調整等のためパーク&ライド駐車場整備が11月以降になったこと、また、住民に対するTFPの開始時期が11月になったことにより、効果の発現が遅れたことを勘案すれば、概ね当初事業計画通りに実施できたと考える。(※昨年度取り組み効果は6.2万人)

パーク&ライド駐車場による利用増については、翌年度以降は通年で効果が期待され、また、2年間にわたる地域参画型を意識した一連の利用啓発活動での定量的な効果計測は困難ではあるが、三木市民による存続要望の署名活動や、沿線高校における各種の自発的な活動など、目に見える形での動きに繋がってきており、さらに今後の鉄道利用行動拡大に結び付けていく下地作りには少なからず成果が現れている。

#### 【主な取り組み効果】

- 1) シニアパス等の発売による効果・14.2万人  
シニアパスの発売: 12.6万人、粟生線～三宮お得意っぷ等の各種企画乗車券の発売: 1.6万人
- 2) パーク&ライド時間貸し駐車場の整備による効果・0.6万人
- 3) 各種スタンプラリーによる効果・1.1万人
- 4) 沿線住民に対するモビリティ・マネジメント等・1.5万人  
TFPIによる沿線住民の利用促進効果: 1万人、自治体職員による通勤定期への転換など: 0.5万人
- 5) その他・0.3万人  
鉄道関連イベント開催による効果(沿線イベントとの連携効果含む): 0.2万人、郊外学習体験による効果: 0.1万人

(実施済み及び実施中の事業)

#### 1. 企画きっぷの充実と効果的なPR活動

・新規の定期外利用者誘致を図るため、70歳以上の高齢者を対象とした割引乗車券(シニアパス)を初年度に引き続き発売した。【4月～】今年度発売分のシニアパスは、有効期間を4ヵ月に延長し、パス提示により割引引きで買物等が出来る優待施設も拡大させ、さらに使いやすく利用できるパスとした。その結果、発売数は月当たり2倍以上に増加し、高齢者の固定的な利用に繋がった。また、別途実施したTFPIによるアンケート調査や協議会での意見を反映し、平成24年2月より試験発売した平日の昼間及び土休日に使用できる格安な企画乗車券「粟生線～三宮お得意っぷ」は1ヵ月間で1,602セットの発売があり、想定以上に好調な売れ行きとなった。

○シニアパス発売枚数(平成23年4月～24年3月)2,536枚、※前年度発売枚数(平成22年10月～平成23年3月)734枚

○粟生線～三宮お得意っぷ他、粟生線関連各種企画乗車券発売枚数(平成23年4～24年3月)3,024セット

## 2. 利用しやすい駅・快適な駅づくり

・駅業務の合理化により無人駅が大半であり(18駅中、17駅)、また、駅売店は1店舗しかなく、利用促進のための各種企画乗車券の購入が限定的であった。このため、購入機会の創出による利用増を図るため、初年度に引き続き、企画乗車券自動販売機を栗駅、恵比須駅に設置した。【12月～】※初年度設置駅:緑が丘駅、三木駅、小野駅

・沿線イベントの開催内容など、沿線情報を適切なタイミングで効果的に発信するため、センター駅からの制御により粟生線各駅にて一斉放送できる設備を導入した。【平成24年1月～】

なお、告知ナレーションなどの音源や放送プログラムは、沿線の高校の制作協力を得て継続的に実施する。

・西鈴蘭台駅ホーム付近の法面に植栽を行い、待合い環境の改善を図った。【6月～】

・粟生線活性化キャラクター「しんちゃん・てつくん」と沿線各市のシンボル花をモチーフにしたキャラクターシートを粟生線で運用頻度の高い5編成の車両に導入し、快適な車内環境の提供とマイルール意識の醸成を図った。【平成24年3月～】

## 3. パーク&ライド促進

・電車利用の潜在的な需要の掘り起こしと駅勢圏の拡大による利用者増を図るため、初年度に実施した「小野駅」駅前に引き続き、「広野ゴルフ場前駅(10台収容)」【平成23年11月～】「三木駅(20台収容)」【平成24年3月～】、「押谷駅(8台収容)」【平成24年3月～】駅前にパーク&ライド時間貸し駐車場を新設し、さらに小野駅前に増設(8台)を行った。【24年3月～】

## 4. 接続バス情報の提供

・駅周辺のバス停留所の位置・路線図等の駅へのアクセスバス路線情報や、列車時刻表等の情報を記載した駅アクセスマップを、初年度にも制作した「おでかけガイド」の付録資料として編集し、新聞折り込み(約68,000戸)や社員による戸別配布により広く沿線に配布した。【7月】

## 5. 小・中学校校外学習利用促進

・学校団体の継続的な利用誘致と公共交通利用啓発を図るため、初年度に引き続き、粟生線の校外学習素材として神戸市域の小学校を対象とした粟生駅周辺での農業体験校外学習(田植え、稲刈り)【6月・10月】や、三木山森林公園での自然体験学習プランを企画・実施した。【6月、7月、10月】

## 6. 沿線イベントへの公共交通利用促進

・粟生線沿線の集客イベント(三木金物まつり、小野市産業フェスティバル等)を中心に、協議会だより等の配布によるPR、「しんちゃん・てつくん」キャラクター着ぐるみや新たに製作したミニトレインの活用による沿線催事への誘致を行い、年間を通じて継続的に利用促進PRを実施した。

(利用啓発参加イベント)

【4月】小野市菜の花イベント、インフォラータこうべ2011、兵庫県盲導犬協会イベント

【7月】「鉄道模型展」小野市うるおい交流館エクラ

【8月】神戸市月が丘・桜が丘自治会夏祭り、ミステリートレイン

【4月】小野市菜の花イベント、インフォラータこうべ、兵庫県盲導犬協会イベント

【7月】「鉄道模型展」小野市うるおい交流館エクラ、

【8月】神戸市月が丘・桜が丘自治会夏祭り、ミステリートレイン

【10月】神鉄トレインフェスティバル、北播磨中央公園イベント、小野市産業振興フェスティバル、三木南ふれあい交流イベント、ちょっと檜山1周年記念イベント

【11月】三木金物まつり、北神急行トレインフェスティバル、もりもりおもちゃ箱フェスタ2011、あわの里2周年記念イベント

【2月】神戸青少年科学館イベント、粟生線活性化シンポジウム、兵庫県子育て支援会議

【3月】ラッピング列車お披露 試乗&撮影会

## 7. 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供

・沿線スタンプラリーの実施

沿線の観光資源や歴史・文化、さらに地域物産の魅力を伝え、沿線内外からの観光利用者の増加を図るため、以下のスタンプラリーを企画・実施した。

○「グルメスタンプラリー」【7～9月】 夏休み期間中の利用者増加施策として、神戸電鉄全線1日フリーパスと沿線のグルメスポットで利用可能な割引券がセットになった「おもてなしきっぷ」を発売した。(発売数約4,000セット) 駅近傍の飲食店舗と協力した地域参画型の利用促進事業として地域の活性化に繋がる企画であり、利用者と協力店舗の両者から非常に好評を頂いた。

○「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」【10月～平成24年3月】 粟生線の駅を起点として、沿線ゆかりの史跡を巡りながら駅スタンプを集めて歴史クイズに答えるスタンプラリーを実施した。(粟生線推定利用者数:約9000回)

・駅周辺の観光・ハイキング案内看板の設置(緑が丘駅)

駅周辺のアクセス施設(バス・駐車場・駐輪場等)や沿線名所・ハイキングコース、バスルート等を表示した自立式案内看板を設置した。

## 8. 沿線の景観・名所づくり

・周辺地域からの旅客誘致を図るため、葉多駅周辺に菜の花の植栽を行った。【6月】

・フラワーライン計画の一環として、木津周辺の法面に桜の植樹を行った。【平成24年3月】

## 9. 鉄道関連イベントの開催

・秋季に恒例開催している利用啓発イベント「神鉄トレインフェスティバル【10月】」や「ミステリートレイン【8月】」「ラッピング列車お披露目試乗&撮影会」【平成24年3月】を実施し、域内外からの新規利用者の開拓と利用啓発を図った。  
・鉄道イベント等において、効果的な旅客誘致や利用啓発を図るため、粟生線の魅力を描いたラッピング列車を3月末より運行している。ラッピングデザインは、地域の大学との連携事業として学生よりデザインを募集（応募総数27作品）し、厳選3作品の中から一般投票により最終デザインを決定する方法により地域参画型の取り組みとして実施した。

## 10. 営業情報の提供

・粟生線の現状や協議会の活動状況のほか、スタンプラリーと連動した沿線のグルメスポットや企画切符などの旅客誘致情報、さらに、「粟生線利用促進マップ」を付録にした「粟生線おでかけガイド」を制作し、社員による沿線への戸別配布（約10,000戸）や新聞折り込み（約68,000戸）を実施した【8月】

また、ウェブサイト上の協議会HPは、協議会報告・事業活動の状況・イベント情報等の最新ニュースをより分かりやすくレイアウトしてリニューアルし、域内外に対してリアルタイムでの情報発信と新規旅客誘致を図った。

・協議会の活動や沿線高校で自主的に取り組まれている利用啓発活動状況、校外学習体験等に参画した小学生からの応援メッセージなどを掲載した「協議会だより」（チラシ・ポスター）を夏・秋・冬期毎に制作し、社員・自治体職員による駅頭一斉配布や沿線自治会等への配布により、沿線や利用者に対してタイムリーな情報発信を行った。（付属資料：粟生線活性化協議会だより・秋号を参照）

（配布数）夏号：駅頭一斉配布：約5,600枚

秋号：駅頭一斉配布：約6,700枚、新聞折り込みによる配布：54,000枚、沿線自治会等への配布：約1,000枚

冬号：駅頭一斉配布：約6,700枚、沿線自治会等への配布：約3,000枚

春号：駅頭一斉配布：約6,700枚、沿線自治会等への配布：約3,000枚

## 11. 沿線住民等へのモビリティ・マネジメント、キャラクターを活用した公共交通利用啓発PR、沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動

・沿線住民に対するTFPの実施【9月～】

沿線住民（10,000世帯）を対象に、公共交通利用の重要性の意識付けと、コミュニケーションアンケートを通じたTFPを実施し、マイカーから鉄道への自発的な交通行動変容を促す取り組みを実施した。

また、活性化に向けた沿線高校の自主的な取組み事業の報告や、学識経験者や地域住民等によるパネルディスカッションを含む「粟生線活性化シンポジウム」を開催し【平成24年2月】、地域住民のマイレール意識の醸成と自発的な鉄道利用を呼び掛けた。

・沿線事業所や学校を対象としたモビリティ・マネジメントの実施

粟生線の沿線企業や学校職員の通勤実態を把握するとともに、通勤時の公共交通利用を啓発するため、沿線事業所や学校（1,051事業所）を対象として、個別郵送によるアンケート調査を実施した。【平成24年2～3月】

・利用啓発ポスターの制作・掲出【9月～】

モビリティ・マネジメント事業と併行して、利用者の更なる乗車を働きかけるために、沿線住民へのメッセージと企画乗車券情報の案内ポスターを作成し、車内吊りや駅での掲出を行った。（付属資料：利用啓発メッセージポスター縮小版参照）

・キャラクターを利用した利用啓発PR【4月～】

沿線各地での地域イベント等において、粟生線活性化キャラクター「しんちゃん・てつくん」の着ぐるみやミニトレインを活用して、「粟生線活性化協議会だより」やティッシュ等の利用啓発グッズの配布を行うなど、広く沿線住民に活性化への取り組みに対する理解と協力を呼び掛けた。（参加イベントは前述の「沿線イベントへの公共交通利用促進」を参照）

・自治体職員による粟生線利用率先行動【4月～】

沿線地域住民が参加する自治会の集まりや、沿線企業等に対して粟生線の現状説明や利用促進の呼びかけを実施した。その結果、自治会内での利用促進に関する広報物の回覧や、地域住民主体の粟生線利用に関するアンケート調査の実施、住民主体の応援組織の発足など、利用促進に対する機運が高まりつつある。

また、小学校の校外学習時に公共交通利用の重要性を啓発するモビリティ・マネジメント学習等を実施した。さらに、沿線自治体の職員に対しても出勤や出張時、または休日利用の促進を図るため、職員への呼びかけを継続して実施するとともに、沿線で職員対象の催しを実施した。

## 12. 利用者参加による公共交通利用啓発活動

・七夕列車、クリスマス列車の特別運行

粟生線活性化キャラクター「しんちゃん・てつくん」のキャラクター列車を使用して「七夕列車【7月】」「クリスマス列車【12月】」を特別運行するとともに、併せて、協議会だより、シール、ティッシュ等の利用啓発グッズの配布、キャラクター着ぐるみ「しんちゃん・てつくん」の活用等により、沿線住民等の粟生線活性化への理解と利用啓発を訴えかけた。

### 13. 駅広告看板の活用による利用啓発

・地域参画型の活動として、沿線高校等が粟生線への応援メッセージや利用啓発を促す絵画をデザインし、それを駅構内にある広告看板枠に掲出することにより、地域と一体となった駅の利用環境改善とマイレール意識の醸成を図った。  
(協力高校) 兵庫商業高校、神戸鈴蘭台高校、三木東高校、小野高校  
(絵画掲出駅) 鈴蘭台駅、西鈴蘭台駅、志染駅、小野駅

### 14. 駅前駐輪場の改修

・神戸複合産業団地の最寄り駅である木津駅において、通勤利用者等からのニーズが高い駐輪場屋根などを整備することにより、利用者の利便性向上を図った。

#### 【二次評価】

・自己評価のとおり。  
・引き続き、関係者が連携・協働しながら創意工夫を活かした取り組みが、適切に実施されるよう努められたい。  
・なお、情報提供に当たっては幅広く周知を図るとともに、わかりやすさ等も考慮し、より一層効果的な実施に努められたい。

## Ⅲ 具体的成果

- ① 定められた評価方法・評価基準にしたがって、評価事項について事業を評価したか。  
その際、事業の効果・影響とそれ以外の効果・影響を分離して評価したか。

### 1. 企画きつぷの充実と効果的なPR活動

・シニアパスによる利用増の効果は、販売時の簡易アンケートにより販売前の移動手段等を調査結果を勘案し、販売枚数に基づいて推定した。また、沿線の直営スーパーにおける定期利用者割引サービスの効果は、同店舗の対前年同月の一人当たり顧客単価比較等により推定した。  
・粟生線関連企画乗車券の発売による利用増の効果は、発売枚数より推定した。

### 2. パーク&ライド促進

・鉄道利用増の効果は、駐車場時間貸し利用者に鉄道利用サービス券を配布し実数測定した。

### 3. 小・中学校校外学習利用促進

・校外学習参加者数を実数計測し、利用増を測定した。

### 4. 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供

・「おもてなしきつぷ」による利用増の効果は、発売枚数及び店舗での割引クーポン利用数を勘案して推定した。  
・「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」による利用増の効果は、設定コース走破毎の記念品の配布数により推定した。

### 5. 鉄道関連イベントの開催

・イベント開催時に参加者、来場者の実数計測及びアンケート調査により、利用増の効果推定した。  
また、各イベント開催時や特別列車運行時におけるHP閲覧アクセス数を測定し、PR効果を確認した。

### 6. 営業情報の提供

・「粟生線おでかけガイド」に添付したクーポン券利用数を実測し、利用増の効果推定した。

#### 【二次評価】

・自己評価のとおり。  
・シニアパスなどの割引乗車券は、一時的に減収になっても新規利用につながることを期待され、適切な評価を行う観点からも実数測定を続け、事業を判断するための基準・方法等の見直しについて引き続き取り組まれたい。

- ② 実施した事業が地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業であるかどうかを検証したか。

### 1. 企画きつぷの充実と効果的なPR活動

・「シニアパス」の発売について、発売期を重ねる毎に顕著に発売数が増加しており、前年度実績との比較では2倍以上の発売数となっている。口コミを含むPRが浸透し、高齢者の鉄道利用の困り込み及び利用促進に繋がっていると評価している。

なお、直営スーパー提携の定期券利用割引サービスの効果については、景気低迷による顧客単価の減少から顕著な利用増効果は認められないが、一人当たりの顧客単価の推移を把握しながら当面は継続的に実施していく予定である。

・「粟生線～三宮お得きつぷ」による新期利用増については、普通乗車券や時差回数券等からの転移を勘案した上で効果を把握する必要があるが、現時点では顕著な旅客収入増が認められないため、新規利用や継続的なご利用への案内とPRに努める。

### 2. パーク&ライド促進

・「小野駅」駅前パーク&ライド駐車場(10台収容)において、前年度のオープン直後の電車利用での駐車回数は、PR効果により順調に利用が進み、現在では1日当たり10台程度まで利用が増加し、時間帯によっては満車状態となっている。このため、さらに潜在的な需要も見込んで隣接地に増設を行った。

### 3. 小・中学校校外学習利用促進

・農業体験校外学習は神戸市域の小学校3校より延355人の参加があり、地域住民にボランティアとして作業支援して頂く地域参画型事業として好評を得た。

住民に対するモビリティ・マネジメントや地域の連携意識の醸成に向けて継続的な活動実施が必須であり、利用啓発教材の改良による教育プログラムの充実化を図り、次年度以降も継続的に実施する予定である。

### 4. 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供

・「おもてなしぎっぷ」による効果は、飲食店でのクーポン券利用数から約2,500人と推定される。

・「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」による効果は、約9,000人と推定される。

### 5. 鉄道関連イベントの開催

・鉄道関連イベントの一つである「神鉄トレインフェスティバル」では、今年度、チラシ配布やポスター掲出エリアの拡大や各種媒体を通じたPRの強化を図った結果、初年度を大きく上回る来場者(対前年比58%増)があった。沿線の高校・大学による催物への参画、また、沿線飲食店の出店協力を得るなど、地域参加の意識醸成が進んでいると評価され、粟生線利用促進にも大きく寄与した。

○神鉄トレインフェスティバル

来場者数:2,903人(内、粟生線利用者 約1,100人) ※初年度来場者数1,835人(内、粟生線利用者約800人)

○ミステリートレイン

参加者119名、32組(応募者150組、566名) ※初年度来場者数 121名、38組(応募者146組、523名)

○ラッピング列車 お披露目試乗&撮影会

お披露目式参加者:約300人、試乗参加者196人(応募者数467人、参加当選者256人)

### 6. 営業情報の提供

・7月に発行した「粟生線おでかけガイド」に添付した沿線飲食店でのクーポン利用数は、4,090枚であった。沿線協力店舗からは次年度以降の継続的な参加を希望する声も多く、協議会活動の認知度向上とともに地域の活性化及び実際の電車利用の促進につながったと考える。翌年度においては、協力店舗を拡大し、継続的に地域の活性化と利用促進を図る予定である。

#### 【二次評価】

・自己評価のとおり。  
・地域住民だけではなく観光等の目的で公共交通を利用する者の視点からも検証し、より一層分かりやすく、使いやすい公共交通とすることで、自立性、持続性を高めるように努められたい。

## IV 自立性・持続性

### 1 事業の本格実施に向けての準備

#### ① 実施した事業を翌年度実施するにあたって問題点があるかどうかを検証したか。

実施した事業について、利用促進の効果は概ね期待どおりの効果が得られており、また、個々のイベント事業で実施したアンケート調査結果から、粟生線の現状認識や協議会活動の認知度は着実に向上している。

また、「おもてなしぎっぷ」の発売が非常に好評であったこと、TFP実施に伴うコミュニケーションアンケート等の調査結果や沿線自治会の自主的なアンケート調査結果より、以下の点が課題として挙げられる。

●平日昼間時間帯及び土休日の定期外利用の潜在的な需要が見込まれることから、継続的な利用促進を呼び掛ける上で、これらのニーズに応えるための格安企画乗車券を平成24年2月より試験発売中であり、今後、この効果を検証した上で継続発売の是非を検討する。

●沿線住民による自主的で継続的な利用促進活動を行うための組織作り(サポーターズクラブの設立やワークショップの開催など)

#### 【二次評価】

・自己評価のとおり。  
・事業実施による直接的な結果のみならず、地域公共交通全体への効果、地域社会全体への効果等も考えられることから、今後、このような課題を検証していくことも検討されたい。

② 実施した事業について利用者数が想定をかなり下回るなど効果が現れていない場合には、翌年度事業を実施するにあたって必要な見直しを行っているか。翌年度も同じ事業を実施する場合には、適切な理由等が明らかにされているか。

利用促進に資する事業については、効率的なPRの実施によるPR経費の低減や沿線地域との連携による効率的な事業運営により費用対効果の改善を図り、概ね期待どおりの取り組み効果があった。また、事業の企画において、鉄道イベントについては、グルメスタンプラリーで協力を得た飲食店の出店や自主的な活性化活動を展開している沿線高校のイベント運営参加、また、車両ラッピングデザイン制作における沿線大学との連携など、継続的に地域と連携・協働して、継続的に事業推進できる環境整備を行った。次年度においては、これらのノウハウや本年度に整備した放送設備等のインフラや地域とのネットワークを有効活用してより効果的にPRを行うとともに地域と連携し一体となって利用促進・利用啓発事業を推進する。

【二次評価】

- ・自己評価のとおり。
- ・実施事業の一層の費用対効果を高めるよう努められたい。

## 2 事業の実施環境

① 当該事業の翌年度実施のための財源について検討を行い、財源の目処がついたか。

翌年度の事業実施にあたっては、沿線自治体からの財政支出によることで合意形成されており、各自治体の議会において予算承認を得る予定である。

【二次評価】

- ・自己評価のとおり。

② 住民等による自主的な利用促進、啓発等の活動や協賛金拠出への協力等当該事業を翌年度実施する環境を整備しているか。

沿線自治会単位での利用啓発活動や地域住民による自主的な活動が年間を通して以下のとおり行われ、粟生線存続と利用促進への気運の向上が確実に図られている。

- 「粟生線活性化協議会だより」の駅頭配布や自治会内での回覧の定着、自治会新聞での利用促進の呼びかけ など
- 「自治会独自の利用促進に向けたアンケート調査の実施や粟生線存続に向けた署名活動
- 利用促進や利用啓発に資する沿線住民による自主的な組織の設立など

また、沿線の高校(小野高校・三木東高校)では、粟生線活性化・利用促進をテーマにした放送作品の制作(NHK全国高校放送コンテスト準優勝を受賞)や課題研究・プレゼンテーション、アンテナショップなどの自主的な利用啓発活動が実施されたほか、以下のとおり、年間を通して沿線の住民・学校・団体等から多大な協力・支援を得ながら協働して事業を展開し、利用促進事業の継続的な環境整備と沿線住民の意識醸成が図られている。

- 駅広告看板枠の活用における板面デザインの製作(小野高校、三木東高校、神戸鈴蘭台高校、兵庫商業高校)
- 駅一斉放送設備活用におけるナレーション等制作(小野高校)
- ラッピング列車のラッピングデザインの制作(神戸芸術工科大学)
- 神鉄トレインフェスティバル、ラッピング列車お披露目式での催物参画(三木東高校、神戸芸術工科大学など)
- 農業体験実習への参加(沿線小学校:3校)及び地域住民のボランティアによる作業支援
- 七夕列車及びクリスマス列車イベントでの駅・列車の装飾(沿線幼稚園・保育園児及び父兄による装飾参加) など
- 「粟生線活性化シンポジウム」での自主的な利用啓発活動状況の発表(三木東高校、小野高校)

【二次評価】

- ・自己評価のとおり。
- ・今後の持続性という観点から、引き続き地域住民の理解を得ながら、連携・協働してより効率的・効果的な環境整備に努められたい。

③ 当該事業の本格実施のための財源について検討を行ったか。

各事業の実施により期待した利用増が喚起されていることから、事業の継続が期待されている。地域との連携や協働を深度化させて、さらに自立性と持続性のある事業となるように傾注しながら事業経費の抑制について検討するとともに、沿線自治体と交通事業者の費用負担や役割について議論しているところである。

【二次評価】

- ・自己評価のとおり。
- ・引き続き事業の評価や問題点の検証結果等を踏まえつつ、検討されたい。

## V 住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成

① 協議会における審議事項が明確に定められ、計画事業の進め方、実施状況について審議される体制となっているか。

法定協議会の運営要領において、連携計画の策定、計画事業の進め方、実施状況、自己評価等に関して協議することとなっている。また、事業実施の詳細等については、検討会を設置し検討できるとされており、関係者間において合意されている。

【二次評価】

・自己評価のとおり。

② 協議会に住民が参加したり、住民の意見が反映される仕組みが設けられているか  
(公募制、住民意向調査等の実施が協議会の運営要領において定められているか。)

法定協議会の構成員には沿線住民の代表として各市の自治会長等(6名)が含まれている。また、事業の実施状況については、法定協議会(今年度は4回開催)で説明し、住民等の意見が事業に反映される仕組みが設けられている。

【二次評価】

・自己評価のとおり。

・公共交通の確保・維持に対する地域住民の関心を高め、利用促進を図るための住民参加型ワークショップは評価できる。今後も地域住民とのきめ細かな意見交換等を通じ、より良い事業を地域住民と協働して取り組む環境を引き続き構築し、事業の実施に活かしていくよう努められたい。

③ 計画事業を実施するにあたって協議会が適切に開催されているか。

第1回協議会において協議会の審議事項等を定めた協議会規約を制定したほか、事業の進め方や内容の変更等について審議するため適宜協議会を開催(今年度は7月、10月、1月、平成24年3月)するなど、事業を実施するにあたって法定協議会が適切に開催されている。

【二次評価】

・自己評価のとおり。

④ 協議会の議事が傍聴、議事録や関係資料の公開等によって適切に開示されているか。

法定協議会の運営要領において、議事の傍聴は可能であること、審議内容、議事録等はウェブサイト上のHPにおいて協議会開催後速やかに公表することが規定されており、当該規定に則って、協議会の議事が開示されている。

【二次評価】

・自己評価のとおり。

⑤ 地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業を翌年度実施することについて地域関係者の実質的な合意が形成されたといえるか。

法定協議会において、事業の進め方、実施状況、費用負担、事業継続の必要性等について、報告・審議され、関係者の合意形成が行われている。また、法定協議会の構成員以外の者からの反対の声もなく、粟生線利用促進及び沿線の活性化を達成するための事業については、地域関係者の実質的な合意は形成されたといえる。

【二次評価】

・自己評価のとおり。